

『臨死体験』

K. K

10年程前、喉頭がんステージ4と言われ、それから検査が始まり、終わると直ぐに入院。放射線治療・抗がん剤治療が始まり、それが1回目の手術。気が付くと退院まで6ヵ月も掛り、暫くすると転移が見付き2回目の手術。その時のお話です。

大きな川に向かってトボトボ歩いているのです。暫くすると川の傍らに汚い小屋があり、その中から映画の『用心棒』に出て来るような浪人が出てきて段平抜いて、お前は本当にこれで良いのかと凄い形相で叫んで追い掛けられ私は嫌だと言いながら必死で逃げました。其れが『三途川』です。気が付いたら病院のベッドの上でした。



3回目の手術時も、全く同じ三途川を経験しました。

4回目は誤嚥性肺炎を患い自宅療養していた時の事です。一寸熱が出て血圧も低くなり、掛りつけ医に行き、暫くすると救急車が来て大きな病院に運び込まれました。すると医師が直ぐに人口呼吸器を付けると言うので、私はそれは直ぐに外せるのですねと聞きました。

大丈夫です！！・・・話を聞いた途端に気を失いました。今度は自分の周りに頭からシートでも被った様なものが幾つもフワフワと飛んでいます。何だろうと思っていると、段々ハッキリして、それは忙しく働いている看護婦さんでした。そして左を見ると妻が私の手を握っていたので、握り返しながら妻の名を呼びました。すると妻が大きな声で・・・

『看護婦さん意識が戻りましたと』・・・泣きながら叫んでいました！！



意識がなくなってから一週間がたち、その間一度、人工呼吸器を外した所、夜中3時頃に妻と長男に☎があり、血圧が30台になっているので、もう一度人工呼吸器を付けますと聞き、覚悟を決めたと言っていました。後、リハビリが始まり、最初は壁伝いに3歩～4歩しか歩けず、平行棒歩行・階段とかやり乍ら一歩一歩リハビリに挑戦。

退院して先生に訊ねた所、この次起きたら命の保証は出来ませんと!! 肺と食道の別離を言われ、手術を受け、皆さんの仲間入り、近所に公園あり、杖を突きながら少しずつ歩き始め、5年掛けてようやく杖を手放す事が出来ました



【継続は力なり】

何事も落込まず、前向きに考える事の大事さを痛感しました。

